

国語年鑑

2002年版

KOKUGO-NENKAN

2002

Japanese Language Studies
Annual Survey and Bibliography



The National Institute for Japanese Language

大日本図書

pub., DAINIPPON TOSHO

国語年鑑 2002年版

KOKUGO-NENKAN 2002

Japanese Language Studies : Annual Survey and Bibliography

2002年12月10日 印刷

2002年12月15日 発行

定価 (本体 7,600円+税)

編者 国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

電話 (03)3900-3111

発行者 大日本図書株式会社

代表者 金子賢太郎

印刷者 JTB印刷株式会社

代表者 青木 玲二

〒104-0061 東京都中央区銀座1-9-10

発行所 大日本図書株式会社

Tel. (03)3561-8678 (編集)

(03)3561-8679 (販売)

Fax. (03)3561-3065

振替 00190-2-219

UDC (058) “55” 809.56

NDC 810.5

ISBN4-477-01556-9 C3002

(平14-11)

この年鑑を使う人のために

1. この年鑑は、2001年1月1日から12月31日までの国語関係資料に基づき、「文献」「名簿」「資料」の3部分に分けて編集した。巻末に「索引」を付けた。
2. 「文献」の刊行図書および雑誌論文は、原則として、直接原資料に基づいて記録し、分野別に掲載した。採録した図書・雑誌の発行所一覧をそれぞれの項に続けて掲載した。

未入手、あるいは未見の故に掲載できなかったものも多いかと思われる。国立国語研究所にご連絡、ご寄贈いただければ幸いである。

なお現在、国語年鑑の編集は従来のカードによる手作業から、コンピュータによる機械作業へと、その方法を移行させつつある。試行錯誤が続いているため不備な点も多々あるかと思う。ご意見やご注意を得て、順次改善していきたい。

3. 「名簿」は、国語関係者名簿、各学会・関係諸団体の一覧等を掲載した。なお、国語関係者名簿は、国内・国外合わせて約2100名を収めた。現住所・現職は、原則として2002年5月末現在である。物故等に関する情報については、遺漏もあるかと思われる。お気づきの方は御一報いただければ幸いである。
4. 「資料」は、「文部科学省科学研究費等の交付状況」その他を収めた。
5. 巻末の「索引」は、この年鑑に収めた刊行図書・雑誌論文について、それぞれ編著者名から題目番号によって検索できるようにした。
6. この年鑑の編集は、伊藤雅光・新野直哉・斎藤達哉・熊谷康雄が担当した。

目 次

第1部 文 献

刊行図書一覧..... 7

国 語 (学).....	8	マス・コミュニケーション.....	38
国 語 史.....	14	国 語 問 題.....	39
音 声・音 韻.....	16	国 語 教 育.....	41
文 字・表 記.....	17	外国人に対する日本語教育.....	49
語 彙・用 語.....	19	言 語 (学).....	51
文 法.....	24	辞典・用語集.....	57
文 章・文 体.....	26	参 考 資 料.....	69
方 言・民 俗.....	27	国語研究資料.....	72
ことばと機械.....	32	('02年版追補)	89
コミュニケーション.....	33		

採録図書発行所一覧..... 111

雑誌論文一覧..... 127

国 語 (学).....	128	コミュニケーション.....	179
国 語 史.....	130	マス・コミュニケーション.....	190
音 声・音 韻.....	135	国 語 問 題.....	191
文 字・表 記.....	138	国 語 教 育.....	194
語 彙・用 語.....	141	外国人に対する日本語教育.....	206
文 法.....	149	言 語 (学).....	214
文 章・文 体.....	162	参 考 資 料.....	226
古典の注釈.....	166	書 評・紹 介.....	227
方 言・民 俗.....	169	('02年版追補)	235
ことばと機械.....	174		

採録雑誌発行所一覧..... 280

第2部 名 簿

1. 国語関係者名簿	311
2. 各学会・関係諸団体一覧	474
3. 学術団体・審議会等における関係者氏名	484

第3部 資 料

幼稚園教育要領	489
小学校学習指導要領	494
中学校学習指導要領	505
高等学校学習指導要領	511
平成13年度文部科学省科学研究費等の交付状況	517
受賞一覧(関係学会賞など)	533
『国語年鑑』所収「資料」一覧	537
索引(刊行図書・雑誌論文著編者名)	543

第 1 部

文 献

(刊行図書・雑誌論文)

刊 行 図 書 一 覧

- 2001年1か年の刊行図書の文献目録を分野別に掲載した。各文献内の記載は、題目番号・書名・(著編者)・発行所・発行年月・判型・ページ数(「4, 240, 2p」は、順に前付け、本文、後付けの表示である)・定価の順である(ただし欧文献目録は著編者・書名への順である)。適宜、解説、目次を記した。
- 定価は原則として本体価格を記したが、追補では発行された時点の税込価格が記されている場合もある。御注意いただきたい。
- *印の刊行図書は、国立国語研究所で入手できなかったものである。*印のものおよび収載もれの刊行図書等について、ご連絡ご寄贈いただければ幸いである。

国 語 (学) (T1~43)	8
国 語 史 (T44~63)	14
音声・音韻 (T64~68)	16
文字・表記 (T69~87)	17
語彙・用語 (T88~137)	19
文 法 (T138~156)	24
文章・文体 (T157~165)	26
方言・民俗 (T166~231)	27
ことばと機械 (T232~239)	32
コミュニケーション (T240~305)	33
マス・コミュニケーション (T306~308)	38
国 語 問 題 (T309~327)	39
国 語 教 育 (T328~453)	41
外国人に対する日本語教育 (T454~470)	49
言 語 (学) (T471~554)	51
辞典・用語集 (T555~772)	57
参 考 資 料 (T773~810)	69
国語研究資料 (T811~1059)	72
('02年版追補) (T1060~1330)	89

国語(学)

書名 (著編者) 発行所 発行年月 判 ページ数 定価

◇国語(日本語)一般

- 1 怪しい日本語研究室 (アーシー, イアン)
毎日新聞社 2001-3 B6 203p 1400円
- 2 おもしろ日本語なるほど事典 (森睦彦監修)
実業之日本社 2001-2 B6 254p 1400円
- 3 おもわず人に話したくなる「日本語」の本 (PHP文庫) (雅孝司)
PHP研究所 2001-8 A6 241p 438円
- 4 キライなことは勢揃い (お言葉ですが… 5) (高島俊男)
文芸春秋 2001-2 B6 275,4p 1762円
- 5 *声に出して読みたい日本語 (斎藤孝) 草思社 2001-9 B6 214p 1200円
- 6 ことばの雑学 (恋塚稔) 泉書房 2001-7 B6 373p 2800円
[「ことばの宝石箱」と「ことばの雑学」を合本したもの]
- 7 ことばの豆知識 話す力、書く力がつく! (知的生きかた文庫) (佐川誠義監修)
三笠書房 2001-3 A6 252p 533円
- 8 言葉と文化・文学 (武蔵大学公開講座) (武蔵大学公開講座ワーキング・グループ編)
御茶の水書房 2001-10 B6 9,284p 2600円
国際化のなかの日本語の姿 (石井久雄) p.179-202
- 9 さすが! 日本語 (ちくま新書290) (渡辺実)
筑摩書房 2001-4 B40 234p 680円
- 10 知ってるようで知らない日本語 (PHP文庫) (柴田武)
PHP研究所 2001-2 A6 403p 648円
[『知ってるようで知らない日本語』『知ってるようで知らない日本語2』(ごま書房1987年刊)をベースとして再編集したもの]
- 11 日本・日本語・日本人 (新潮選書) (大野晋; 森本哲郎; 鈴木孝夫)
新潮社 2001-9 B6 201p 1100円
- 12 日本語深化論 日本人は「日本語」からしか生まれない (中島尚志)
黙出版 2001-4 B6 263p 2000円
- 13 日本語の化学 (岩松研吉郎) ぶんか社 2001-4 B6 247p 1000円
- 14 日本語は生き残れるか 経済言語学の視点から (PHP新書167) (井上史雄)
PHP研究所 2001-8 B40 207p 660円
序章 言語の国際化と難易度 経済言語学の視点 1.日本語の価値変動 2.言語の日英戦争 3.
第二公用語論は日本語をどう変えるか 4.日本語の難しさ 5.文法と敬語の障壁 6.日本語表記
の国際化 7.日本語の未来
- 15 日本語は宝 (清田幸雄) けやき出版 2001-9 B6 293p 1500円
- 16 ホンモノの日本語を話していますか? (角川oneテーマ21 B-9) (金田一春彦)
角川書店 2001-4 B40 216p 571円

1.知っておきたい日本語の特徴 2.日本語に表れる日本人の性質 3.言葉の知識を増やす

17 言葉の虫めがね〈角川文庫12017〉(俵万智)

角川書店 2001-6 A6 199p 400円

[角川書店1999年刊の文庫化]

18 思想する「からだ」(竹内敏晴)

晶文社 2001-5 B6 238p 1800円

19 *日本語は七通りの虹の色〈集英社文庫 自選ユーモアエッセイ2〉(井上ひさし)

集英社 2001-2 A6 302p 495円

◇国 語 学

20 コトバ 音と文字の間(戸村幸一)

創英社(三省堂書店) 2001-4 A5 150p 1600円

21 続・田中稔子の日本語がわかる 文法・語彙・表記 *You Can Understand Japanese!*
(田中稔子) 近代文芸社 2001-5 A5 198p 1700円

[「田中稔子の日本語の文法」の続編]

22 日本語への五つの扉(藤田保幸編著刊)

2001-3 A5 53p

23 みんなの日本語教室(加藤重広)

三笠書房 2001-6 B6 264p 1300円

24 新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える(庵功雄)

スリーエーネットワーク 2001-2 A5 15,336p 1800円

25 アンケート調査の進め方〈日経文庫833〉(酒井隆)

日本経済新聞社 2001-5 B6小 234p 860円

26 旧字旧かな入門〈シリーズ日本人の手習い〉(府川充男;小池和夫)

柏書房 2001-3 A5 251p 2300円

27 現代日本語必携(中村明編)

学燈社 2001-4 A5 210p 2000円

[「別冊国文学」(学燈社平成12年11月刊)の改裝版]

ことばの芸術 日本語でつむぎだす美のかたち(中村明) <1.現代日本語の展望>音声・音韻
(上村幸雄) 文法 文法カテゴリを中心に(仁田義雄) 語彙(田中章夫) 意味(森田良行)
漢語(野村雅昭) 文字表記(佐竹秀雄) 文体・表現(橘豊) 方言(加藤正信)
言語生活(南不二男) 敬語・待遇表現・ポライトネスと社会関係(ネウストブニー, J.V.)
<2.日本語論へのアプローチ>言語文化学 日本語を文化で解く(牧野成一) 言語行動論(杉戸清樹)
談話分析(ザトラウスキー, ポリー) 社会言語学(真田信治) 対照言語学 対照語用論の視点から(西原鈴子)
計量言語学(伊藤雅光) 認知言語学(山梨正明) 語用論(土屋俊) 記号論(山中桂一) <3.日本語学のフォーカス>品詞分類(川端善明) 文の形と意味(尾上圭介) 格(小矢野哲夫) ヴォイス(村木新次郎) アスペクト・テンス(工藤真由美) モダリティ(益岡隆志) とりたて(沼田善子) 視点(田窪行則) 接続 文の「つながり」から文章・談話の「まとまり」へ(佐久間まゆみ) 引用(砂川有里子)
指示詞「直示」再考(金水敏) 位相語(西尾寅弥) 差別語 まず実態を知ること(遠藤織枝) パラ言語的情報 話しことばの本質(前川喜久雄) 方言の社会言語学(佐藤亮一)
言語変化の構造(井上史雄) <特別企画>日本語力を高めるレッスン(中村明編 小林由紀;水藤新子;石黒圭;田中妙子)

28 日本語学のしくみ〈シリーズ・日本語のしくみを探る4〉(加藤重広著 町田健編)

研究社 2001-10 A5 8,205p 2000円

◇国語学史

- 29 *権力と文化〈院政期文化論集1〉(院政期文化研究会編)

森話社 2001-9 A5 273p 5200円

梵・漢・和語同一観の成立基盤(伊藤聡)

- 30 *本居宣長〈岩波現代文庫 学術〉(子安宣邦)

岩波書店 2001-7 A6 225p 900円

[1992年刊の増補]

- 31 金田一京助とアイヌ語(大友幸男)

三一書房 2001-7 B6 244p 2100円

◇論文集

- 32 意味と形のインターフェース 中右実教授還暦記念論文集 上(中右実教授還暦記念論文集編集委員会編) くろしお出版 2001-3 A5 10,521p 3800円

<1.語の意味と構文>Ishikawa,Kuniyoshi:Path and Implicature in *Go* and *Come* Complex Predicates. 結果表現テアルにおけるアルの存在動詞としての性質について(一戸克夫) 使役・経験のhaveと「させ」について(斎藤伸治) 「すむ・すませる」構文の意味と<節約>の把握について(福安勝則) <2.文の構造と意味機能(1)>発生構文と語順 日韓対照を中心に(安平鎭) Okawa,Hideaki:Predicates and Embedded Questions. 日本語の可能・自発と難易文(加藤紀子) 数を数える能力と合計を表わす文(小早川暁) 水海道方言における与格パターン希求構文の成立条件(佐々木冠) 徳島方言における「非難」「被害」を表す助動詞「マフル」について(島田武) 個体数と内容量(田中秀毅) 日本語の受動文における動作主の省略と関係節化(田中裕司) 複合文末形式の意味と用法 ナケレバナラナイやテハイケナイを例に(田村直子) 認識動詞構文の形式と意味 文法と認知の接点(坪本篤朗) 補文標識「の」の統一的解釈をめぐる問題点(橋本修) 「を」と「への」の転換について(堀内裕晃)

- 33 意味と形のインターフェース 中右実教授還暦記念論文集 下(中右実教授還暦記念論文集編集委員会編) くろしお出版 2001-3 A5 6,527(p.525-1051)p 3800円 [英文併載]

<3.文の構造と意味機能(2)>Mizuguchi,Shinobu:Plurals in Classifier Languages. 疑似二重主格構文と関係節化現象について(山田圭吾) Watanabe,Shin: *Naze* 'why' in Japanese Multiple *Wh*-questions and the Sorting Key Hypothesis;A Preliminary Account. <4.生成統語論>Inagaki,Daisuke:Ellipsis Scope in Japanese. Endo,Yoshio:Space Noun;Case Conversion,Perception and Stage/Individual-Level Predicates. とりたて詞とコソとWH移動の共通性(佐野真樹) 述語名詞の「な」と「の」の選択に関する一考察(島田雅晴) コピュラ動詞アルの二面的語彙特性とその構文的具現(竹沢幸一) Takeda,Kazue:A Note on the Particle *no* in Japanese. Homma,Shinsuke:A Note on Traversal Objects. Whitman,John:Give as a Higher Verb;Reassessing Nakau(1973). <5.談話文法と語用論>時間と空間認知に基づく接続表現 now that/in that節と「ので」節の意味と機能(大竹芳夫) Kato, Masahiro:Japanese *Ga*-clefts in Discourse;A Relevance-theoretic Approach. 接続助詞「シ」の機能(白川博之) 日本語の談話におけるゼロ形式の指示対象について(渡辺文生) <6.音韻論・形態論>混成語考(太田聡) 日本語の母音融合について(小野浩司) 日本語アクセントと最適性理論 平板化の仕組みと語種による適用性の違いについて(田中伸一) 日本語におけるフット依存の語形成とそのアクセント型について(田端敏幸) Matsui,June-ko:

Phonetic and Linguistic Differences in the News; A Comparison of English and Japanese News Items. Lawrence, Wayne P.: The Phonology of *Zehhutyau*; A Prefix is Born.
 <7.英語教育・言語習得・言語処理>母語とは母語習得期間聴覚感知言語資料のLADによる関数
 なり NL=LAD(APLD) in NLAP (菅野憲司) 中右実教授 履歴と業績

34 筑紫語学論叢 奥村三雄博士追悼記念論文集 (迫野虔徳編)

風間書房 2001-4 A5 3,540p 15000円

奥村三雄先生遺稿 「特殊形アクセント」について (奥村三雄) <1.音韻・表記>半濁音名義考 (岡島昭浩) 連濁の音声学的蓋然性 (高山倫明) ロシア資料のエ列音 (江口泰生) 国語資料としての『源威集』 (内山弘) 古文書・古記録の促音表記 (迫野虔徳) 草双紙の行京伝黄表紙三種を中心に (矢野準) <2.文章・語法>『竹取物語』の用語と表現 「敬語」「和文語」「漢文訓読語」をめぐって (関一雄) 源氏物語の段落構成と指示語「かの」 (西田隆政) 「被成(なさる)」の展開 (堀畑正臣) デアルの伸張と体言ナリの衰退 (山下和弘) コトの機能 (青木博史) 近世期の接統詞の展開 版本狂言記を中心として (荻野千砂子) 近世中期上方歌舞伎脚本資料に見えるナ変・下一段の四段化について (坂口至) 本居宣長の著述(擬古文)に見られる「から」について (塚本泰造) <3.語彙>形容詞語彙から見た仮名文書 頻度数・異なり数・高頻度語の使用傾向から (辛島美絵) 外来語成分を含む混種語について その造語実態と構成要素を中心に (林慧君) 『薬名備考和訓鈔』の方言 (田籠博) 近世方言書類の上方語 「仙台言葉以呂波寄」「燈心野語」を中心に (山県浩) 『和歌山県方言』の漢語 (柏原卓) 沖縄県糸満市字糸満の屋号語彙 下茂腹門中の屋号語彙 (岡野信子) <4.方言・アクセント>勸奨文「雨が降っているから傘を持って行きなさい」の韻律的特徴と分布 福岡県グロットグラム調査から (杉村孝夫) 中種子町方言のアクセント 助詞・助動詞 (木部暢子) 日本語アクセントの形成(1) (添田建治郎) 徳之島松原方言の音調体系・再考 早田氏・上野氏の御批判に対して (崎村弘文) 「のさことば」とアクセント (久保智之) 「海の道」方言圏の可能性 九州西部地域方言の動詞テ形について (有元光彦) 日本語・インドネシア語類義語の対照研究の方法 「切断」に関する語彙を例にして (田尻英三)

35 日本語日本文学の研究 前田富祺先生退官記念論集 (前田富祺先生退官記念論集刊行会編刊) 2001-3 A5 240p

現代語訳を通して見た中古助動詞「ぬ」の表現意義 (重見一行) 古語辞典の記述・用例について 「あざむく」・「になひいだす」・「かきかぞふ」・「あたたけし」を例として (堤和博) 「をこ」系の語彙について(1) 「をこ」と「をこなり」 (大谷伊都子) 中世後期の時を表す語彙(2) 『太平記』の「昨日」「明日」をめぐって (玉村禎郎) 平賀源内と『名物六帖』 (福田安典) 『芝翫節用百戯通』注釈(2) (荻田清) 近世料理書における「さる」の意味領域 (余田弘実) チラカルの成立 (橋本行洋) 書簡文研究資料としての『女子書翰文』 (小椋秀樹) 国分一太郎の従軍体験に基づく作品群 (前田均) 集団語に見る言い換え (米川明彦) ジェンダー表現の日韓対照考察 (鄭秀賢) 身体語彙・身体語彙慣用句考 (林八龍) 日本語コーパスの作成に関する基本的構想 (李漢燮) 動詞の一過性合意によるノ・コトの使い分けについて (戴宝玉) 推量形式と条件節 (森山卓郎) 引用論から見た「伝達のムード」の位置づけ (藤田保幸) 自動と他動、あるいは所動と能動 (大鹿薫久)

36 安田文芸論叢 研究と資料 (安田女子大学日本文学会安田文芸論叢編集委員会編) 安田女子大学日本文学教科事務局 2001-3 A5 598p 非売

[安田女子大学日本文学科開設35周年記念出版]

<論文編1>古今集古写本における「秋」 『伝公任本』と『元永本』の字母選択意識(塚本直美)
文章形態形成の規制要因に関する一考察 文章制作指導の理論的基礎を求めて(大西道雄) 対
話能力を高める学習指導の課題 小学校五年生の対話実態に基づいて(山本名嘉子) <論文編
2>「方言差」を記述するための一つのモデル 宮古島三方言動詞活用形の比較を通して(有元光
彦) 日本語とシンハラ語のアスペクトに関する対照研究(宮岸哲也)

- 37 * 立正大学法学部創立二十周年記念論集 *Rissho University a Commemorative Collection of Papers Celebrating the Twentieth Anniversary of Foundation of the Law Faculty* (立正大学法学会編刊) 2001-2 A5 255p 非売
世界の公用語政策と日本の英語教育(小西正恵) <講演>現代日本の若者言葉について(鈴木敏和)
- 38 記憶と記録<シリーズ言語態4> *Remembering and Recording* (臼井隆一郎; 高村忠明編) 東京大学出版会 2001-9 A5 6,302p 3800円
<2.記憶のテクネー>7.富士谷御杖の言語論 国学における声と文字(佐藤深雪) p.131-149
9.言語論と文学論の架橋 ソシュール, マラルメから発して(湯浅博雄) p.175-196
- 39 言語学と日本語教育2 *New Directions in Applied Linguistics of Japanese Linguistics and Japanese Language Education* (南雅彦; アラム佐々木幸子編) くろしお出版 2001-4 A5 11,343p 3500円
日本語の非規範的構文について(柴谷方良) 「今」の対応物を同定する「今ごろ」について(田窪行則; 笹栗淳子) 「燃やしたけれど燃えなかった」のはなぜ? 「弱い達成動詞」と「強い達成動詞」(アラム佐々木幸子) アスペクト構造の語彙化における普遍性と差異 英語と日本語の場合(西由美子; 白井恭弘) 完了の「〜タ」と連体修飾(辻村成津子; 飯田雅代) 「まだ〜ない」文における意志操作の役割 他動詞、非能格動詞、非対格動詞の一考察(ジョンソン由紀) 条件の接続助詞から談話・対人機能の助詞へ タラ、ッタラの文法化(ヘイズ高野園; 新里瑠美子) 定型詩にみる日本語のリズム 休止拍の必要性和役割(浅野真紀子) ナラティブにおける普遍性と文化的固有性 個人的経験物語における視点と心理的枠組み(南雅彦) 会話における認知的側面と話者間における相互作用 日本語教育への提案(大野剛; ジョーンズ, キンベリー) 「なんか」 会話への積極的参加を促すインターアクションアルマーカ(エメット啓子) ディスコースモデルによる副詞の分析(ハドソン遠藤陸子) 第一言語と第二言語の習得過程 対話調査による指示詞コ・ソ・アの習得(迫田久美子) 外国語習得の最適条件 情報処理のモデルをもとに(当作靖彦)
- 40 ことばを考える4 (愛知大学言語学談話会編) あるむ 2001-6 A5 261p 2000円
言語の起源について考える フィリップ・リーバーマンの説を紹介する(伊藤忠夫) p.1-32 言語研究における「話者(Sprecher)」の概念について(岸谷敏子) p.33-52 言語の統計的特徴と暗号 阿川弘之「山本五十六」と暗号とその解説(林芳樹) p.71-86
- 41 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究成果報告書4 平成12年度(1) *Report of the Special Research Project for the Typological Investigation of Languages and Cultures of the East and West 2000* (筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織編刊) 2001-3 B5 8,436p

[英文・中国語併載]

<1.東洋の言語と文化>Aoshima,Sachiko:Obligatory Control Constructions in Japanese. Moro,Yuji: ZPD as Voices in Unity; Heterogeneity,Hearership,and Dialogue in Classroom Discourse. 日本語の所有文・存在文と構造的具現化原則(加賀信広) 日本語の状態記述二次述部と品詞分類 記述的考察を中心に(竹沢幸一) 行為の空間的位置づけについて(山田博志) 「翌朝」「翌春」等を修飾する節のテンス(橋本修) 「動詞+なくする/なくさせる」について 動詞の意志性を中心に(金熹成) 하다・되다を日本語から見る(鷲尾龍一) 「一字漢語+スル」と「一字漢語+하다(hata)」(安平鎬;張根壽) 中世末期日本語と現代韓国語のアスペクト体系 アスペクト形式の分布の偏りについて(安平鎬;福嶋健伸)

- 42 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究成果報告書 4 平成12年度(2)
Report of the Special Research Project for the Typological Investigation of Languages and Cultures of the East and West 2000 (筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織編刊)
 2001-3 B5 407(p.437-843)p

[英文・露文併載]

<3.東西言語文化の比較対照研究>意味拡張におけるメトニミーの位置づけ(瀬戸賢一) 言語文化学への扉はどう開けるか(安井泉) H₂Oをどう呼ぶか 対照研究における相対主義と認知主義(広瀬幸生) 身体部位の比喩的意味と具象性 日独慣用語における「手・Hand」の機能について(伊藤真) 日英独語条件文における因果関係を示唆する言語形式(吉田和史) <4.データベースと計算機処理>多言語音声コーパスの構築と分析(小野祐介;山本幹雄;板橋秀一) 母語話者・非母語話者の英語音声および日本語音声の収録と計算機処理(田中和世) 国語辞書を用いた意味記憶の構築へ向けて(平井有三;田中岐直) 日本語作文学習システムのための統計的言語モデルを用いた日本語チェッカー(山本幹雄)

- 43 日本語の伝統と現代 (『日本語の伝統と現代』刊行会編)

和泉書院 2001-5 A5 3,415p 10000円

1.『万葉集』の表記と初期木簡 柿本人麻呂歌集の筆録をめぐる(小谷博泰) 『古今集』の歌「天の川紅葉を橋にわたせばや」をめぐる(岩井宏子) 2.上代語「加行延言」又は「久語法」の本質(清瀬義三郎則府) 「博勢」という語について(丸田博之) 関西方言における「のだ・のです」に該当する表現をめぐる(木川行央) 談話における「けっこう」について(蓮沼昭子) 言語教育としての日本語教育と国語教育(山崎恵)

国 語 史

書 名 (著編者) 発行所 発行年月 判 ページ数 定価

◇国語史一般

- 44 *基礎古文書のことば〈シリーズ日本人の手習い〉 改訂版 (秋山高志監修)
柏書房 2001-2 A5 211,83p 2300円
- 45 日本語の歴史 青信号はなぜアオなのか (小松英雄)
笠間書院 2001-10 B6 3,256p 1900円
1.日本語語彙の構成 2.借用語間のバランス 3.言語変化を説明する 怪しげな説明から合理的説明へ 4.音便形の形成から廃用まで 5.日本語の色名 6.書記テキストと対話する 7.係り結びの機能
- 46 日本語史論考〈研究叢書270〉(西田直敏) 和泉書院 2001-3 A5 5,389p 11000円
1.日本語史研究への新視角 2.日本語史研究の諸問題 中世を中心に 3.現代の文章・文体・敬語 4.用語解説 5.書評・追悼論文

◇上代語～現代語

- 47 書物の言語態〈シリーズ言語態3〉*Ecology of the Book* (宮下志朗; 丹治愛編)
東京大学出版会 2001-5 A5 7,302p 3800円
＜I.書物とリテラシー＞3.テキスト記述・祖本再構・編集史の内的再構 中国語音韻史料の場合 (遠藤光曉) p.51-66 4.ロドリゲス『日本大文典』の「ないで」(坂梨隆三) p.67-84
- 48 日本語史研究の課題 (日本語研究会編) 武蔵野書院 2001-10 A5 271p 5000円
古代の音韻現象 字余りと母音脱落を中心に (毛利正守) 母音連続の融合と非融合 今後の課題 (柳田征司) 上代漢字文研究 「言」をめぐる (白藤礼幸) 明治期落語速記の表記 (野村雅昭) 語形変化に関する一問題 アラタシ(新)からアタラシ(新)へ (山口佳紀) 『捷解新語』における「オシラル」の変容 (林義雄) 読本に見られる和語語彙造出の方法 曲亭馬琴を中心にして (鈴木丹士郎) 格機能の弛緩 (北原保雄) 擬音語・擬態語の変化 (山口仲美) 対馬方言書『日暮芥草』について (迫野虔徳) “黒猫”の言語文化史 (前田富祺)
- 49 書くことの文学〈上代文学会研究叢書〉(西條勉編)
笠間書院 2001-6 A5 8,247,67p 7000円
＜1.漢字で書くこと＞文字の衝撃 (呉哲男) 文章史から見た法隆寺幡銘と薬師像光背銘 七世紀金石文の作成年代に関して (小谷博泰) 律令官人が歌を書く (犬飼隆) 漢字の「数」の渡来と運用 東アジア比較言語研究から (藤井茂利) ＜2.書くことの方法＞定型と文字の間 (西條勉) 文字とうた 書くことの文学 (丸山隆司) 『万葉集』の表記 返読字・助字 (佐佐木隆) 古事記の漢語助辞 「還」の副詞用法を中心に (瀬間正之) ＜3.人麻呂歌集の表記＞人麻呂歌集略体歌の表記の特性 (冲森卓也) 人麻呂歌集略体表記の離陸 和語の語序に即して書くこと (矢嶋泉) 人麻呂歌集と季節表現 「春立つ」をめぐる (岩下武彦) 古事記は人麻呂歌集に後れたか 古代日本語表記史の問題 (工藤力男) ＜4.文献目録一覧＞ (北川和秀)
- 50 神の言葉・人の言葉 <あわい>の言葉の生態学〈古代文学会叢書1〉(岡部隆志; 丸山隆司編)
武蔵野書院 2001-10 B6 2,293p 2600円